

ヒロシマ 知の核なき世を

G7首脳に訴えた被爆者

戦後 78年



証言会で被爆体験を語る小倉桂子さん＝6日午前10時17分、広島市で

ヒロシマを知ったあなたたちは、これからどう向き合っていくべきですか。被爆者の小倉桂子さんへは、五月の先進七カ国首脳会議（G7広島サミット）で各国首脳と面会して以来、心

の中でこう問いかけている。サミットが「核廃絶への第一歩」となるのを願う、米軍の原爆投下から七十八年となった六日も「平和な世界は実現できる。広島で起きたことを知ってほしい」と訴えた。●面参

照 「朝には動いていた人も夕方には息をしながら、町は遺体であふれました。六日、広島市で開かれた通訳者グループ主催の証言会。代表の小倉さんが、多くの外国人観光客らに英語で体験を語った。「被爆者は三度目の核兵器が使わ

れないように祈り、証言してきた。自分に何ができるか考えて」と呼びかけた。

小倉さんは八歳の時、爆心地から約二・四キロの自宅近くで被爆した。大けがを負った人々が息絶え、町中に遺体を焼く煙が上がった。惨状は脳裏に焼き付き、放射能の恐怖にもおびえた。「被爆から十年が過ぎて急に亡くなる人たちもいた。子どもが無事に生まれるまでとれだけ怖かったか」

一九七九年、原爆資料館の元館長で夫の馨さんが急逝した。小倉さんは夫の遺志を継ぎ、広島を訪れた海外のメディアや学者を案内するようになった。二〇一〇年からは自身の被爆体験を語り始めた。

サミットでは、G7各国やウクライナ、招待された国々の首脳と対面した。首

脳らは被爆者の遺品と向き合い、小倉さんの話に耳を傾けた。「一人の人間として、核兵器は持つべきではないと痛感したのではないか。その思いをどう表現していくかが問われている」

サミットの核軍縮文書「広島ビジョン」は核兵器禁止条約の存在にすら一切触れず、十分なものではなかった。だが、核保有国を含む首脳が被爆の実態の一端に触れ、その姿が世界に発信されたことに意義を見いだす。

ウクライナのゼレンスキー大統領とは、ロシアとの

戦争終結を願う向き合った。しかし、戦局は泥沼化し、命が失われ続けている。戦地には地雷や不発弾も残され「戦争そのものが悪。私たちは核兵器以外のことでも考えなくては」と案じる。

つらい被爆体験を語る小倉さんの背中を押すのは「そこにいた人しか分からないことがある」との思いだ。サミット後も証言や取材の依頼は絶えず、休む間もなく飛び回る。「心の葛藤や恐れを文字や数字で見せることはできない。私の知る限りを伝えなくては」

平和な未来 私たちで

広島市の平和記念式典で「平和への誓い」を朗読する子ども代表に選ばれた広島市立牛田小六年の勝岡英玲奈さん(左)と、同五日市東小六年の米広朋留君(右)は、被爆者への思いを胸に「誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます」と力強く宣言した。

子ども代表 力強く宣言

た。遺体は一日で二百体ほどの時もあったと知り、衝撃を受けた。曾祖父は「なぜ自分は生き残ったのか」と苦悩したという。「ひいおじいちゃんが死んでいたら、お母さんも私も生まれていなかった」。宣言では、曾祖父の体験を一人でも多くの人に知ってもらいたいと語った。そして亡くなった曾祖父には「生き残ってくれてありがとう」と伝えた。

米広君は二〇一八年の兄に続き、平和への誓いを発誓する米広君(左)と勝岡さん(右)は午前8時29分、広島市中区の平和記念公園で

子ども代表に選ばれた。身内に被爆者はいないが、学校の平和学習で被爆者の体験を聞き「僕たちが伝えていかなければいけない」と思った。



平和への誓いを発誓する米広君(左)と勝岡さん(右)は午前8時29分、広島市中区の平和記念公園で

広島「平和への誓い」全文

みなさんにとって「平和」とは何ですか。争いや戦争がないこと。差別をせず、違いを認め合おうこと。

悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。

身近なところにも、たくさん人の平和があります。

昭和二十年（一九四五年）八月六日午前八時十五分。耳をきくような爆音、肌が焼けるほどの熱。

皮膚が垂れ下がり、血だらけとなつて川面に浮かぶ死体。

子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて」と、叫び続ける母親。

たった一発の爆弾により、一瞬にして広島は破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか」仲間を失った私の曾祖父は、そう言つて自分を責めました。

原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから七十八年がたちました。今の広島は緑豊かで笑顔あふれる町となりました。

「生き残つてくれてありがとう」と命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えて。友達の良いところを見つけよう。

みんなの笑顔のために自分月先の先進七カ国首脳会議（G7広島サミット）では、世界のリーダーたちに被爆者の声を聞いていただきました。

各首脳による胸襟を開いた議論や「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」の発出を通じて、国際社会の機運をいま一度高めることができました。

国際賢人会議の議論も踏まえながら、引き続き積極的に取り組めます。

被爆者の方々の平和への思いを推進します。

今、平和への思いを一つにするときです。被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくりしていきます。

令和五年（二〇三三年）八月六日

子ども代表 廣島市立牛田小学校六年 勝岡英玲奈

廣島市立五日市東小学校六年 米広朋留

いを次の世代へつないでいくための取り組みについては、「ユース非核リーダー基金」のプログラムなども通じて積極的に進んでいきます。

首相あいさつ要旨

今から七十八年前の今日、一発の原子爆弾により、十数万人とも言われる多くの命が失われました。

犠牲となられた方々の御霊（みたま）に謹んで哀悼の誠をささげます。核兵器によつてもたらされた広島、長崎の惨禍は決して繰り返してはなりません。

わが国は引き続き非核三原則を堅持しながら、唯一の戦争被爆国

として「核兵器のない世界」の実現に向けた努力を続けま

す。現在、核軍縮を巡る国際社会の分断の深まりやロシアによる核の威嚇などにより、その道のりは一層厳しくなっています。「核兵器のない世界」の実現に向け、国際的な機運をいま一度呼び戻すことが重要です。

原点となるのは被爆の真相への正確な理解です。今年五